

令和4年度

県政に対する意見・要望事項

富山県商工会議所連合会

## 意見・要望事項

### 目 次

#### 【富山商工会議所】

- 1 コロナ禍の影響を大きく受ける中小企業・小規模事業者への支援  
について…………… P1
- 2 日本海国土軸の形成に必要な北陸新幹線「金沢-敦賀間」  
の2022年度末開業の確実な実現について…………… P1
- 3 産業観光の振興と支援について…………… P2

#### 【高岡商工会議所】

- 4 重要文化財勝興寺の国宝指定への支援について…………… P3
- 5 JR城端線・氷見線のLRT化による直通化と万葉線との一体化等県  
内総合交通システムの構築について…………… P3
- 6 商店街の空き店舗等利活用への支援について…………… P4

#### 【氷見商工会議所】

- 7 能越自動車道の機能向上(一元管理と4車線化)について…………… P4
- 8 教育魅力化コーディネーターの配置について…………… P5

#### 【射水商工会議所】

- 9 地域公共交通の拡充及び利便性の向上について…………… P5

#### 【魚津商工会議所】

- 10 新型コロナ禍における事業持続化支援について…………… P6
- 11 国道8号バイパスの4車線化整備促進について…………… P7

#### 【砺波商工会議所】

- 12 城端線・氷見線でのICカード利用実現について…………… P8

#### 【滑川商工会議所】

- 13 滑川海浜公園キャンプ場の整備事業に対する財政支援について… P8

#### 【黒部商工会議所】

- 14 観光施設再建への支援について…………… P9

## 1. コロナ禍の影響を大きく受ける中小企業・小規模事業者への支援について (富山)

商工会議所は、コロナ禍の影響を大きく受けた中小企業・小規模事業者に対し、経営指導員を中心に各種経営支援を行うとともに、地域の経済と社会活動維持のため、「ワクチンの共同接種」を実施するなど、県の施策実施について連携・協力し、県経済の活力維持・強化に貢献している。

商工会議所がより一層、中小企業・小規模事業者への経営支援を持続的に推進するために、県の支援施策を一層強力に展開されたい。

とりわけ、「富山県中小企業リバイバル補助金」は、申請が容易であることが事業者の申請意欲をかき立て、これまでに3回の募集が行われ、中でも2次募集においては、公募最終日を待たずして受付が締め切られる程、中小企業・小規模事業者にとって利便性の高い補助金である。

地域の中小企業・小規模事業者の支援に万全を期すため、同補助金の継続実施、並びに採択件数を増やすことを目的に予算拡充を図られたい。

## 2. 日本海国土軸の形成に必要不可欠な北陸新幹線「金沢-敦賀間」の2022年度末開業の確実な実現について (富山)

北陸新幹線は、東海地震などの大規模災害時において東海道新幹線の代替補完機能も有し、日本海国土軸の形成に必要不可欠な国家プロジェクトである。今般、「敦賀-大阪間」の環境アセスメントが開始され、政府は着工5条件の早期解決を図ること等の方針を示した。

大阪・京都・神戸・大津、そして富山・金沢・福井の7商工会議所は、連携して北陸新幹線の早期全線開業の実現に向けた共同アピールをまとめ、敦賀以西の速やかな着工・開業を求めている。また、「北陸新幹線早期全線開業実現大阪協議会」とも連携を深め、強力に推進していくことにしている。

については、「金沢-敦賀間」の令和5年度末の開業を確実に実現するとともに、敦賀開業を待たず、敦賀以西の工事に着工し、令和12年度を目標に、フ

ル規格による大阪までの全線整備が実現するよう国をはじめ関係機関に働きかけられたい。

### 3. 産業観光の振興と支援について（富山）

コロナ禍により、観光・宿泊業は非常に厳しい状況に置かれているが、アフターコロナの時代において、「観光」は地方創生のカギとなる。

富山県は、立山・黒部アルペンルートをはじめ、「大自然」を資源とする観光地が数多くあるが、雨の多いわが県では、来訪者の満足度は天候に左右されることが多くなる。

富山県商工会議所連合会は、県内の歴史ある伝統産業、世界に誇れる最先端技術など、多様な産業群を観光資源とする産業観光の振興を推進しており、天候に左右されない「産業観光」と連携して「広域観光」を展開することは実効性が高いと考えられる。

加えて、大学をはじめとする教育機関と連携し、産業観光を通じて、県内のみならず、全国や海外にも展開している企業や、付加価値の高い技術を有する企業が数多くあることを学生に知ってもらうことは、意義のあることであり、産業観光が地元企業へのUターンや定着による地方創生の一助となっている。

富山県のモノづくりの特色を活かした産業観光は、民間主体の事業を行政がしっかりサポートして立ち上がりつつあり、地方創生の柱として育成していただきたい。

については以下について支援されたい。

- ① 付加価値の高い観光サービスとするべく、VRやDXなどを駆使した新しい見せ方についてサポートされたい。
- ② 「産業観光魅力創出事業補助金」を継続・拡充されたい。
- ③ 地元企業の潜在的な魅力をアピールすべく、県の観光PRイベントやUターン説明会などでも「富山産業観光図鑑」を活用していただきたい。

#### 4. 重要文化財勝興寺の国宝指定への支援について（高岡）

重要文化財勝興寺は、富山県内はもとより北陸を代表する浄土真宗の名刹であり、本堂、本坊部分、その他諸堂など12棟が重要文化財に指定されています。ご承知のように、本年4月に20年にわたる平成の修復事業が完工し、創建当時の姿が甦っています。勝興寺は、全国の寺院建築に類例がない城郭の御殿風の造りであることから、勝興寺の価値や評価、魅力の増大など地域の文化財への関心が格段に高まっております。

このほか、県西部地区には、寺社仏閣や城跡、歴史的町並みなど地域が誇る歴史的文化資産が数多くあります。

つきましては、重要文化財勝興の国宝指定と歴史的文化資産の保存・活用について、格段のご配慮をお願いします。

#### 5. JR城端線・氷見線のLRT化による直通化と万葉線との一体化等県内総合交通システムの構築について（高岡）

JR城端線・氷見線は、沿線市、交通事業者等で構成する城端・氷見線活性化推進協議会が、平成29年度に策定した「城端線・氷見線沿線地域公共交通網形成計画」に基づき、両線のさらなる利便性の向上や直通化に向けた検討など、沿線地域の活性化のための各種施策に取り組んでいます。

そのような中、令和2年1月にJR西日本が城端線・氷見線のLRT化など新たな交通体系を提案したことを受け、富山県におかれては、沿線4市とJRとともにこの提案について検討を進められているところです。県西部地域の広域連携の推進、持続的発展にとって城端線・氷見線の利便性の向上と一体的な運用は、大変重要な課題であります。

については、城端・氷見線の活性化と沿線の新たな街づくりのため、両線のLRT化による直通化と氷見線の一部区間で並行して走る万葉線との一体化をはじめ、高齢化社会への対応やカーボンニュートラルに向けて重要な交通インフラであるとの観点から、鉄道や電車、バスなど県内の公共交通機関の総合的な交通システムの構築を図られるよう格段のご配慮をお願いします。

## 6. 商店街の空き店舗等利活用への支援について（高岡）

高岡市の中心市街地においては、これまでもまちづくり機関や商店街団体等が各種の商店街活性化イベントを実施し、にぎわい創出に向け取り組んできました。

しかし、中心市街地の中核である「御旅屋セリオ」からのキーテナント撤退や新型コロナの影響による集客力の減少等により、“まちの顔”であり、県西部地域の交通・交流の要（かなめ）でもある高岡市の中心市街地の空き店舗が増加し、商店街が持つ商業・コミュニティ機能が十分に発揮されていません。

一方、観光地周辺の空き家への飲食店の出店や、隣接する 6 棟の建物をリノベーションして活用する複合施設の整備が進められるなど、若者の視点から“まち”を盛り上げようとする取組みが行われ、商店街の活性化とにぎわい回復に向けた新たな動きも見られるところです。

については、商店街の活性化やにぎわい回復のため、地元資源としての空き店舗や遊休施設を利活用し、前向きな取組みを行う個人や小規模なグループなども利用可能な支援施策について、格段のご配慮をお願いします。

## 7. 能越自動車道の機能向上（一元管理と4車線化）について（氷見）

能越自動車道は、北陸自動車道・東海北陸自動車道等と連携し、富山県西部と能登地域と三大都市圏を結ぶ高規格道路として地域発展に大きく寄与しています。

福岡料金所の廃止や料金見直しにより利便性が向上し、氷見 IC～高岡 IC 区間の日平均交通量は1万台を超える状況となっています。

一方で、市域の3分の2が志賀原子力発電所 UPZ（緊急時防護措置準備区間区域）に含まれ、災害時の第一次緊急輸送道路として、七尾方面からの交通量増などにより車両が集中することが見込まれ、避難に支障をきたすとの懸念もあります。

富山県西部・能登地域の観光振興や物流の円滑化、効率化による地域と産業

の活性化はもとより、国の国土強靱化を図る上でも、国による維持整備の一元化及び暫定2車線で共用している区間、特に交通量の多い氷見IC～高岡IC区間の4車線化の早期事業着手について、格段のご配慮をお願いいたします。

## 8. 教育魅力化コーディネーターの配置について（氷見）

人口減少下において、地方に活力を見出すには、地元を目指す若年層の育成が喫緊の課題であります。

平成30年6月15日閣議決定の「地方創生に資する高等学校改革の推進」において、地域の関係者で構築するコンソーシアム設置に係るモデル事業がスタートし、氷見高校においても、次世代を担う若者が地域から学ぶ機会を創出し、実践力を備え、地域社会に活力を与えることができる人材の育成に向け、令和2年度から地域おこし協力隊を教育魅力化コーディネーターとして採用し、県から支援をいただきながら生徒が地域から学ぶことに力点を置き、未来を見据えた人格形成に取り組んでいます。

しかしながら、この地域おこし協力隊は、令和5年5月末で3年の期間を満了するため、せつかくの地域との良い流れが断ち切れとなる事が想定されます。

高校生が地域活動へ参画し、地元に触れる機会が増加することで、地元定着やUターンの促進など、地元へ愛着を持った若年層の確保に結び付き、経済の好循環や地元産業界への新たな活力となることが大いに期待でき、地方都市のバランスのとれた発展に繋がります。

是非とも、氷見高校が活用可能な教育魅力化コーディネーターの設置、及び氷見高校が取り組む「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」への引き続きの支援を要望いたします。

## 9. 地域公共交通の拡充及び利便性の向上について（射水）

人口減少・少子高齢化が進む中、また、新型コロナウイルス感染症の影響による現下の地域経済の活性化にとって、関係人口の増加は重要な手段のひとつであります。

富山県におかれましては、7月30日に公表された「富山県成長戦略会議中間報告」を踏まえ、「真の幸せ（ウェルビーイング）の向上を目標に据えて、成長戦略の中核となる6つの柱に基づき、各種施策を検討します。」とされ、その6つの柱の「まちづくり戦略」では、「2次交通を含む効率的な公共交通インフラを整備することにより、住みたい市街地と田園地域の両立を目指します。」や「ブランディング戦略」では、「～（前文略）～、関係人口1,000万人」の富山県を目指します。」とされました。

昨年8月に開館した「クロスベイ新湊」は、射水市新湊地区の拠点として公共交通の結節点の機能を有しております。そして、この施設を核に、豊かな歴史文化や食文化に触れることのできるベイエリア周辺を巻き込んで、関係、交流人口増によるイノベーションを起こすことを目的としております。そのためにもまずは、地域住民にとっても生活の質を高める利便性の高い交通体系としての地域公共交通が重要であります。

つきましては、この地域の関係、交流人口の増加を図るうえで、富山県の公共交通の結節点である富山駅、新高岡駅（高岡駅を含む）から「クロスベイ新湊」までの、地域公共交通の拡充及び利便性について格別のご配慮をお願いします。

## 10. 新型コロナ禍における事業持続化支援について（魚津）

新型コロナウイルス感染症の収束が未だ不透明な中、中小、小規模企業においては事業承継、雇用の維持が深刻な課題となっています。

事業持続化においては、経営者の高齢化が進み事業承継できずに休廃業、解散、倒産に追い込まれるケースも見受けられます。

県内の社長の平均年齢の推移を見ると、1990年には55歳であったものが2019年には60.2歳と5.2歳上昇しており、県が2018年に取りまとめた調査報告によると、県内の60歳以上の経営者のうち約4割が後継者未定で約6割が事業承継に対する準備があまり進んでいない状況となっています。

また、中小企業庁の調査では 60 歳以上の経営者のうち 50%超が廃業を予定しており、廃業予定企業の中には約 30%の好業績企業が存在するといった調査結果もあります。

新型コロナ禍の状況下において、益々経営状況の悪化が懸念され日本経済の大きな損失が予想されることから、早急な対策が必要となっています。

今後は後継者の育成、事業承継やM&Aによるマッチング支援に加え、業種転換等企業の新しい挑戦の支援など（事業再構築補助金の活用）、支援事業の拡充と専門家による支援強化について格段のご配慮をお願いしたい。

#### 1 1 . 国道 8 号バイパスの 4 車線化整備促進について（魚津）

国道 8 号線は、日本海沿岸を縦貫する主要な基幹道路であり、本市の市民生活や産業経済等の振興に大きな役割を果たしている。

近年のモータリゼーションの進展とともに、交通の円滑化が求められる中、滑川～入善間までの国道 8 号バイパスが、平成 2 6 年度より全線で共用が開始され、北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅への利便性はもとより、労働者の通勤、大型車両による物流、災害時の重要な幹線道路として新川地域の産業経済や地域の安全に、大きな役割を担っていると期待されております。

しかし、本バイパスの供用開始により、通行車両が集中、交通量が増大している中、未だ入善黒部バイパス（魚津市江口～入善町上野間）が暫定 2 車線での共用となっており、通勤ラッシュの拡大や大型車両の物流（工業製品・原材料、地元特産品等）の障害となっており、混雑による交通事故の発生も懸念されております。

については、交通の円滑化を進めるため、県東部 3 市 2 町（滑川、魚津、黒部、入善、朝日）が連携し、入善黒部バイパス 4 車線化の早期の整備促進について国等関係機関への陳情を行っておりますが、県におかれましても格段のご配慮をお願いしたい。

## 12. 城端線・氷見線でのICカード利用実現について（砺波）

城端線各駅にて、ICカードの利用が可能となるように働きかけて実現していただきたい。

10月1日より「富山地方鉄道の路面電車」で、全国の交通系ICカード10種類（注1）が利用可能となりました。現在、富山県でICカードが利用できない市は、砺波市、南砺市、氷見市だけとなりました。呉西の中心駅で高岡駅利用促進のためには、高校生等が利用するJR城端線、氷見線での利用が不可欠となります。

しかしながら、商業施設等では交通系ICカードが利用できる店が多数あり、キャッシュレス化の更なる普及には大元の鉄道で利用できることが不可欠であります。また、これでは、JR西日本が掲げる「観光型MaaS（マース）」の実現に向けて「テーブルにすら乗らない」こととなります。（注2）

是非ともICカード利用可能に対して絶大なる支援をお願い申し上げます。

注1：従来のecomyca、passcaに加え、Suica、PASMO、Kitaca、manaca、TOICA、PiTaPa、ICOCA、nimoca、SUGOCA、はやかけんの10種。

注2：MaaS（Mobility as a Service）は様々な交通手段を組み合わせたシームレスな移動サービスの概念で、アプリなどを通じ誰でも便利に効率よく移動できることを目的としている。

## 13. 滑川海浜公園キャンプ場の整備事業に対する財政支援について（滑川）

滑川市は東に立山連峰の山麓、西に富山湾に接する風光明媚な地形を擁しております。市内には海拔300mから富山平野と富山湾を一望できる東福寺野自然公園がありますが、海岸沿いにあつて立山連峰を眺めることができる滑川海浜公園は、開園から45年が経過し、市民からは再開発の要望が寄せられている状況にあります。

そのため滑川市では、松林が点在する景勝の地を守りつつ、北側の未整備部分について、海と自然に親しむことができる人気のオートキャンプ場や、能

登半島まで続く富山湾の海岸線と立山連峰の大パノラマを眺望できる展望台など、雄大な大自然と気軽にふれあうことのできる新たな公園施設の整備が進められているところであります。

令和3年度におきましては、展望台エリアの整備に多大なご支援をいただき感謝申し上げますとともに、令和4年度も残るキャンプ場エリアの整備が目指されております。

本公園の整備につきましては、地域住民のスポーツ・レクリエーション振興のみならず、県内外からの観光客の誘導・集客にも寄与するものと期待しているところであり、引き続きこれら計画の促進と財政支援について格段のご配慮をお願いします。

#### 14. 観光施設再建への支援について（黒部）

当市を含め県内各地には、冬期間の大事な観光資源としてスキー場が多数存在しておりますが、その多くは昨今のスキー人口の減少や暖冬化による積雪不足等により来場者も激減し、経営並びに多大な経費の掛かるスキー場施設運営や保全に苦慮しております。

当市においても同様であり、冬季間だけの営業から季節を問わず来場客の期待できる観光施設への脱却を模索し、周辺整備も併せたものへと色々と検討や実証事業等を進めておりますが、知識不足・経験不足等もあり、遅々として進まないのが実情でございます。

また、市内スキー場のある宇奈月温泉街では、富山県のご尽力により永年の夢であった関電ルート的一般開放も数年後に控え、現在は景観形成の一環として老朽化した建物の撤去工事を進めており、併せて新たな受け入れ態勢の整備に取り組んでいる最中でございます。

老朽化したスキー場をはじめとした、冬期間だけの利用施設等の通年型観光施設等への再編・再建について検討しておりますが、富山県におかれましては、物心両面からのご支援をいただきますよう、お願いいたします。